



心の風景を観る

永田円了

Constellation

ユング心理学の概念のひとつに、コンステレーション (Constellation) と呼ばれているものがある。コンステレーションとは、英語で星座の意味である。夜空に光る個々の星はそれ自体「恒星」という意味しかないが、全体として広い視野で見たとき、「星座」という意味ある形をつくり上げている。

1つ1つの事柄や状況が、それだけでは何の意味もなしていないようであっても、あるとき、それらが1つのまとまりとして、意味を示してくる。心の中の状況と外的に起こることが合致して、全体として何か星座のようにまとまってくる、これをコンステレーションというコトバで表したのである。

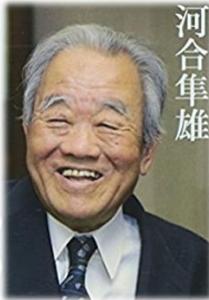
因果律とコンステレーション

人は物事を因果的に考えようとする。こういう原因があってこういう結果があると分かれば、その現象をコントロールできるからである。因果関係さえ見つければ、人間の勝利である。ただこの便利な考え方には危険がはらむ。人は自分のこと、他人のことを考えるとき、因果的に考えすぎるといった間違いを起こすからである。



何かものごとが起こったとき、私たちは「なぜ」そうなったのか、という理由をさ

がす。子どもが学校へ行かなくなったとき、なぜ学校へ行かないのか、と子どもを問い詰める。子ども本人は、理由を聞かれても分からない。本当は行きたいのに行けないのだから。



コンステレーションの手法では、この人が学校へ行かないということは、心の中でどのようなことが起こっているのか、と心の風景を観ようとするのである。うちの子どもが学校へ行かないということは、私にとってどういう意味があるのか、を問うのである。

うちの子どもが学校へ行っていない、との相談を受けたとき、最初にその理由を探さないことである。なぜ、と聞くと話しが限定されてしまうからである。できるだけ開かれた姿勢でその人の心の風景 (コンステレーション) を読むこと。

「死にたい」と言われたとき、なぜ死にたいのか、やめときなさい、などとは言わない。死にたいと言う表現の中に、この人はどのようなことをコンステレート (風景として描こうと) しているのか、を観る。大切なことは、この風景の中に「私の心」も全面的にかかわっているということである。心が入っていないければ、私は単なる「解説者」になってしまうからである。

すべてのものは心の影なり。一つ一つの現象には、必ずや何か意味がある、と考える。何気なく表現されているように思えるものの奥には、心の風景が漂っているのである。常識だけの枠組みに囚われない目をもって、この心の風景に気づくなら、その時こそ、人は自らの物語を生き始めるのであろう。

<事例 DVD等>

河合隼雄/京都大学での最終講義 コンステレーション Constellation
 長新太作「ブタヤマさんたらブタヤマさん」文研出版
 映画「ハニラスカイ」/屋上から飛び降りる時、人生全てがフラッシュバック
 クローズアップ現代/伊藤謙一、キノコ狩り、Constellation として観る
 大河ドラマ/源頼朝が、平重衡の“心の風景を観る”
 大谷み子、認知症介護エキスパート/心の風景を観る
 映画「ハート・オブ・ウーマン」/気配が読めない男のストーリー
 河合隼雄/夢を生きる、2つの事例：鈴木さん、木村さん
 道元の冒険/心の目をみかく
 プロフェッショナル/大野和士/ヴェルディ「椿姫」心の風景を読む
 映画「道」/1954年フェデリコ・フェリーニ監督/道ばたの石ころにも意味がある
 歌・坂本九「見あげてごらん夜の星を」/ピアノ 松下奈緒

